

兵庫
県
協
会
保
険
医
新
聞

西宮・芦屋支部ニュース

No. 298

2011・8・25

発行
〒662-0074

兵庫県保険医協会
西宮市石劔町十八ー八
連絡先 兵庫県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

西宮・芦屋支部
大森内科医院内

ウミガメを取り巻く環境の保護を

7月23日、西宮市勤労会館で、神戸市立須磨海浜水族園園長の亀崎直樹氏を迎え西宮・芦屋支部第31回総会記念市民公開講演会「ウミガメを学んで人間を知ろう!」を開催。支部長の大森公一先生(西宮市・大森内科医院)の挨拶の後、岩下敬正先生(西宮市・岩下内科クリニック)が司会を務め、医師・市民ら120人が参加した。林田英隆先生(西宮市・林田クリニック)の謝辞を掲載する。

講師の亀崎先生はお忙しい仕事の合間を来ていただき、「ウミガメを学んで人間を知ろう!」と題して長時間にわたり、ウミガメの生態と、行動について楽しく、分かりやすくお話し下さいました。

亀崎先生はバリトンのすてきな声色で、父親の仕事の関係で全国を転々と生活した自分の生い立ちを説明。子どもの頃から、野球やサッカーで遊ぶより、生き物を眺めているのが好きだった亀崎少年は、転勤先で次々と海岸が埋め立てられるのを見て、学校の作文でその自然破壊を嘆く作文を書いたそうです。時は日本の経済成長時代。担任は亀崎少年を呼び出し叱責したそうですが、理科の先生が亀崎

少年の気持ちを理解してくれたことが現在の亀崎園長の将来を決定したそうです。

亀崎先生は1956年愛知県豊橋市に生まれ、幼少時代からの夢である鹿児島大学水産学部に進学。卒業後、名古屋鉄道に入社され、愛知県南知多ビーチランドの建設・運営に参加。このときイルカやウミガメとの出会いがあったそうです。その後、八重島諸島の八重島海中公園研究所に派遣され、ここで初めてみた産卵で出てきた子ガメがタイマイとアカウミガメの雑種だったことからウミガメの進化の謎に興味を覚え、ウミガメの虜になっていかれます。4年後、名古屋鉄道を退職され、京都大学理学部動物学教室に入られ、本格的にウミガメの研究がスタートします。

講演ではウミガメ、特にアカウミガメのお話を拝聴しました。人間の誕生は65700万年前ですが、ウミガメは2億年前から生存していたといえます。しかも、600万年前から現在の姿のままだそうです。まことに不思議な動物で、その生態についてはいまだ充分には解っていないそうです。個人でできる研究には限界がある事に気づかれ、全ての人にウミガメの調査に参画してもらおうと、1990年8月に「日本ウミガメ協議会」を設立。現在、いろんな職種の方々1200人の会員がおられ、これらの会員から時間関係なくウミガメの情報が飛び込んでくるそうです。ウミガメはその数が減少し、また産卵地である砂浜も著しく悪化しています。アオウミガメに電波発信機を取り付け衛生追跡による調査もされているそうです。



医師・市民ら120人が熱心に講演に聞き入った



ウミガメについて語る亀崎氏

砂浜で生まれた小亀が海に一生懸命に向かう姿はテレビなどでも見ますが、人間が良かれと思い海に持ち運んでやるのは、ウミガメの行動様式を理解しない対応だそうです。小亀は産卵の場所から海に向かう過程で磁場を会得するので、一瞬のうちに海に放すとウミガメは将来生きていけないそうです。ウミガメは一度の産卵で100個以上の卵を産みますが、海にたどり着いても、魚に食べられるのが多く、厳しい自然の中で1年以上生き続けられるのはごく僅かです。さらに、成長したカメは外海で漁業用の網に引っかかりたり、汚染などで死亡するものが少なくないそうです。さまざま

な困難を乗り越えた非常に少ない数のウミガメしか命をつないでいくことができないのです。講演の中では、護岸工事で砂浜が減り、地方の健全な文化「人と海との繋が」も崩れつつあると強く嘆かれておられました。

ウミガメと聞けば、私は「昔、昔、浦島は助けた亀に連れられて、竜宮城へ来て見れば、絵にも描けない美しさ」の童謡や、「ウサギと亀」の童話でしか思い出しませんが、今まで知らなかったことをご講演いただきました。亀崎先生は、自然の中にたえず生物の美しさを守る為に、ウミガメを取り巻く自然環境の保護を訴え続けられます。亀崎園長は「須磨水族園にご来園の時には、気軽に園長をお呼び下さい」と言われました。特に、いま大きいアナコンダがいるそうです。あつという間の90分でした。

【西宮市・林田クリニック 林田 英隆】

第17回医療過誤訴訟セミナー

「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業の実施と課題」

【日時】 8月27日(土)15時~17時

【会場】 西宮市民会館501号室

西宮市六湛寺町10-11 TEL0798-33-3111

【講師】 大阪大学大学院医学系研究科法医学教室

的場 梁次 先生

【司会】 西宮市・半田医院 半田 伸夫 先生

西宮・芦屋支部 夏の交流企画

屋形船で堪能する日本の夏

【日時】 8月27日(土)18時~20時

集合時間 17時45分

【会場】 大阪・天満橋北詰棧橋乗船場

京阪線・谷町線天満橋駅より北へ徒歩1分

【会費】

7,350円
(事前申込制)



上記企画へのお申込み・お問合わせは 協会事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1803 / Mail:yamada-t@doc-net.or.jp

厚生労働省職員との懇談会

受診時定額負担問題など懇談

7月30日に兵庫県農業会館で、「厚生労働省職員との懇談会」を開催。伊賀幹二先生(西宮市・伊賀内科循環器科)の基調報告と司会進行のもと、医師8人が参加した。

受診時定額負担について、厚生労働省職員からは「定額負担は高額療養費の見直しとセットのもの。財政中立の考えから、定額負担がなくなれば高額療養費の見直しもなくなる」と説明。参加の医師からは「貧困率が16%を超える現状で、これ以上窓口負担を増やすべきでない」「100円の定額負担を許せば今後200円、300円と上げられる危険もあり、国民皆保険を崩す蟻の一穴になりかねない」「また医者が儲けてると思われる」などの意見が出された。

西宮・芦屋支部では厚生労働省と医療現場との考えには少なからず隔たりがあることから、厚生労働省職員に診療所を見学いただくとともに、会員との懇談を通じて信頼関係を築く努力をしてきた。懇談は今回で3回目。



受診時定額負担や混合診療の問題などについてディスカッションする参加者



医師、薬剤師、看護師など多職種の方が参加した

在宅医療は医療スタッフの連携により支えられていると常々感じておりますが、今回の勉強会では越川先生の、薬剤師による薬学的視点からの関わり方が非常に興味深いものでした。

私自身は薬を処方する際、薬の副作用・組み合わせ(ワーファリンと納豆など)は考えても、薬の代謝経路を念頭において処方をしたことはほとんどありません。

質疑応答の際にも「薬の代謝などは薬剤師の領域であり先生方には私たちに任せて欲しい」と強く言われておりましたが、まさにスタッフ間の連携においてお互いの長所を活かしていく理想的な姿であると思いました。最後に「先生方の中には薬剤師が言うところとあまりいい顔をされない方も…」と言われていた点に「は自分もそのうちの一人かと少し反省させられました。」

また外来化学療法をテーマに県立西宮病院の辻江先生・渋谷さんから発表があり、化学療法(いわゆる抗がん剤)を継続していく上で副作用は避けて通れず、患者自身も非常にづらい経験をされます。しかし、化学療法も外来で行うことで患者負担を軽減し、日常と変わらず生活していくことでより良いQOLを保とうとしていきます。その中で地域の医師の関わりを痛感しました。

第27回在宅医療研究会

在宅医療にさらに興味をもてた

7月16日に西宮市神社会館で、第27回在宅医療研究会を開催。土山雅人先生(西宮市・つちやま内科クリニック)の司会で、医師・薬剤師ら73人が参加した。講演①では「在宅医療を支える調剤薬局の役割」をテーマに薬剤師で在宅療養支援薬局研究会理事の越川法子先生が、講演②では「当院における外来化学療法の実際」をテーマに県立西宮病院外科部長の辻江正樹先生、同病院外来化学療法室看護師長補佐の渋谷はるみ氏が講師を務めた。参加いただいた先生からの感想文を掲載する。

世話人会だより

今後はより在宅医療に興味を持ち、さらに関わっていききたいと思うようになりました。

【西宮市・大森内科医院 大森 公之助】

西宮・芦屋支部は7月22日に西宮医療会館で世話人会を開催。6人が参加した。

【報告】

① 英語で診療#30(7・15)

② 第27回在宅医療研究会(7・16)

【予定・企画】

① 第31回支部総会(7・23)

② 『続・続々英語で診療』出版お祝い会(7・23)

③ 健康と医療について語り合う会(7・28)

④ 厚生労働省職員との懇談会(7・30)

⑤ 第17回医療過誤訴訟セミナー(8・27)

⑥ 支部納涼会(8・27)

⑦ 保険請求事務講習会(9・10・11)

⑧ 支部設立30周年企画(10・22)

⑨ 第28回在宅医療研究会(11・26)

※世話人会の日程は毎月第4金曜日です。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

初心者のための 保険請求事務講習会

【日時】 9月10日(土) 14時30分～16時30分

9月11日(日) 10時～15時

【会場】 西宮市民会館 中会議室 301
西宮市六湛寺町10-11(阪神「西宮」駅より北へ徒歩2分)

【定員】 80人(申込順)

【参加費】 7,500円(資料代、2日目の弁当代を含む)

※2日間とも参加された方には「修了証」を発行します。お申込み・お問合わせは
協会事務局 岡林・山田・伊藤まで Tel:078-393-1803